

経営比較分析表

福島県 喜多方市

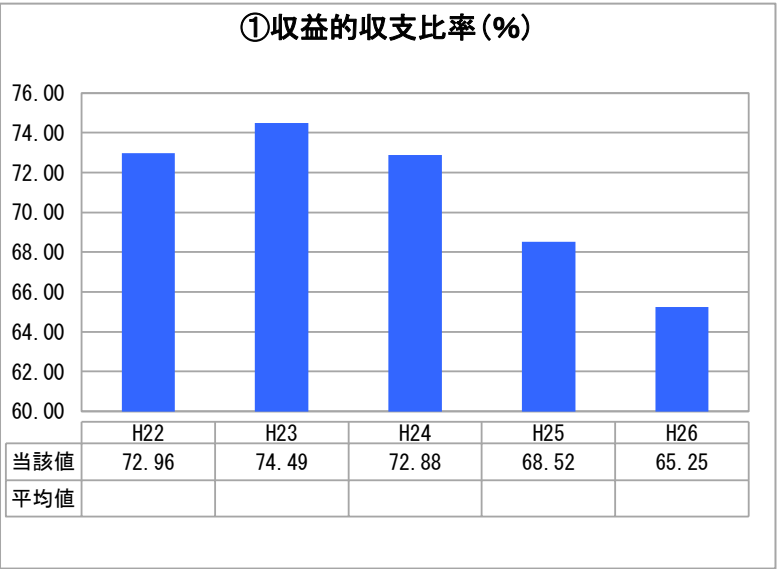
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	5.66	95.97

1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	3,321
--------------------------------	-------

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
50,829	554.63	91.64
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,863	2.90	987.24

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



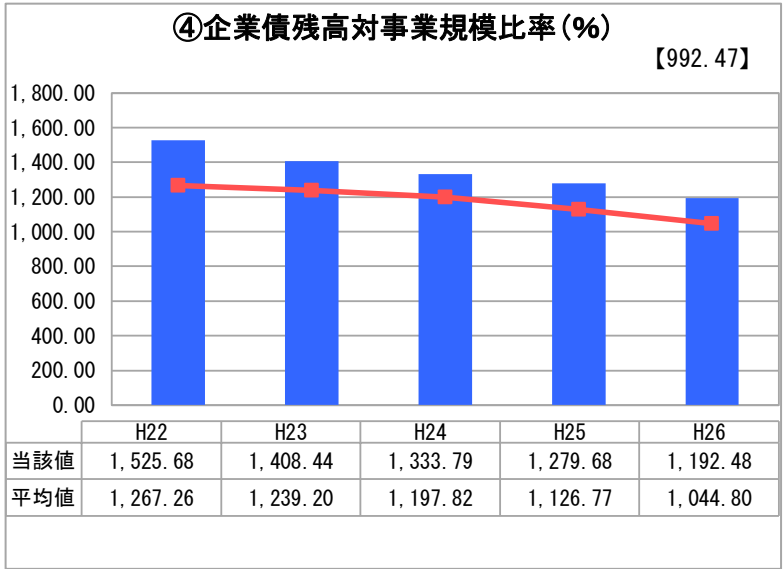
「単年度の収支」



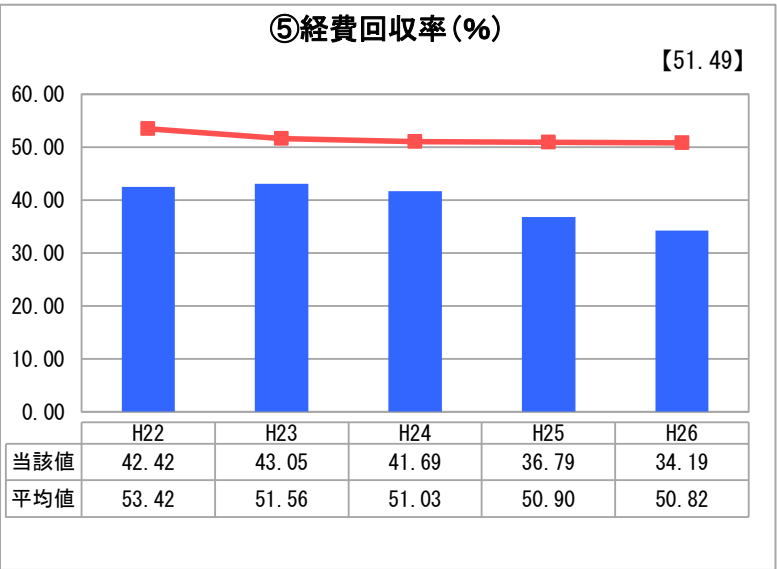
「累積欠損」



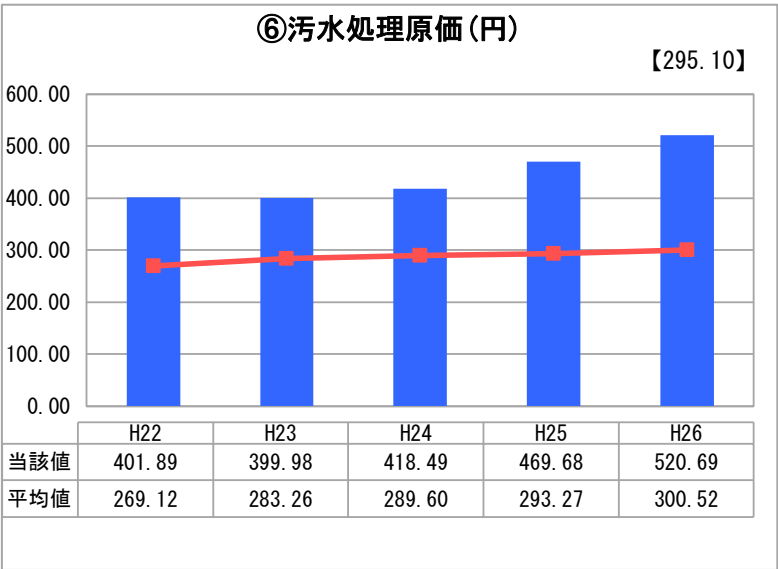
「支払能力」



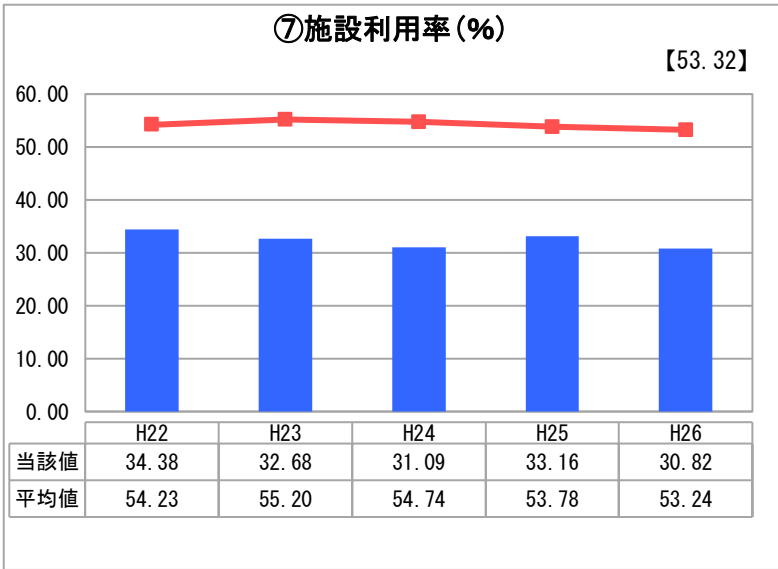
「債務残高」



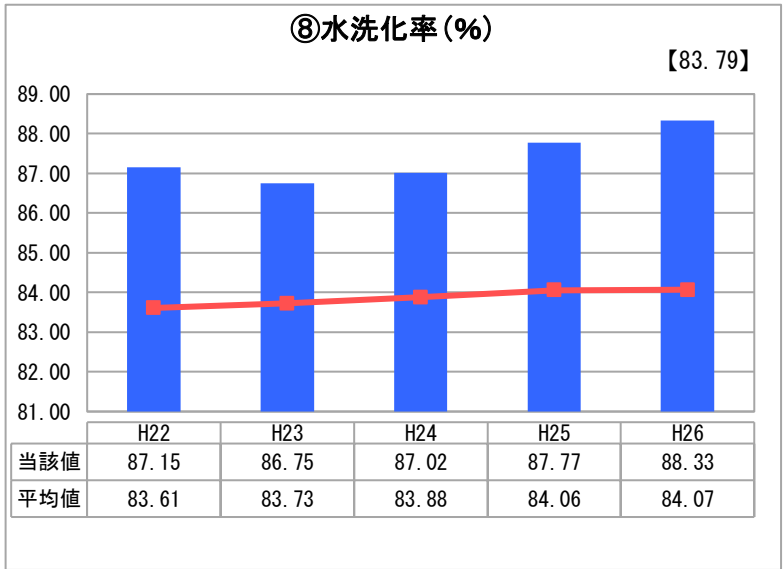
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

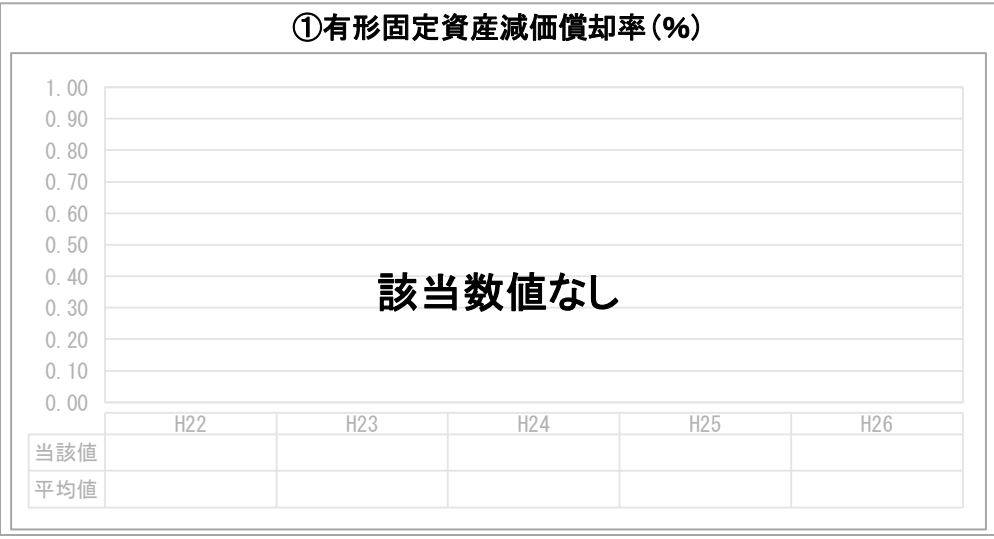


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

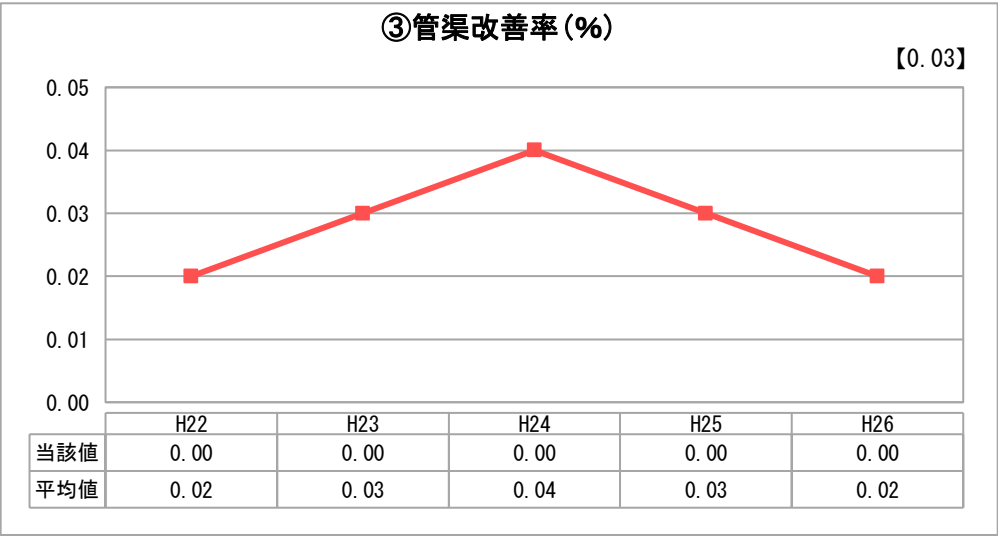
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

1. 経営の健全性・効率性について

現在、管渠布設工事等に関してはほぼ完了し、下水道への加入促進を図っている段階にある。このため、近年の工事等による地方債の償還に伴い①収益的収支比率、④企業債残高対事業規模比率、⑤経費回収率は減少傾向にあり、⑥汚水処理原価は増加傾向にある。また、下水道への加入促進により⑧水洗化率は増加傾向にあるものの、⑦施設利用率は人口減少等によりほぼ横ばいとなっている。

2. 老朽化の状況について

堰沢処理区を昭和60年度に供用開始し、それ以降12処理区を整備し、現在13処理区について供用開始している。年数経過とともに、劣化等による機器修繕が発生している。現在のところ、10処理区において来年度より機能診断を実施し、最適整備構想で改築、更新計画を策定し、修繕と併せ、効率的な施設管理を図る予定である。

全体総括

現在、下水道への加入促進を図っている段階にあるが、供用開始から20年以上経過している区域の老朽化対策も必要な状況となっている。このため、長寿命化計画の策定及び平成32年度の公営企業会計移行による財務諸表の作成により経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組んでいく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。